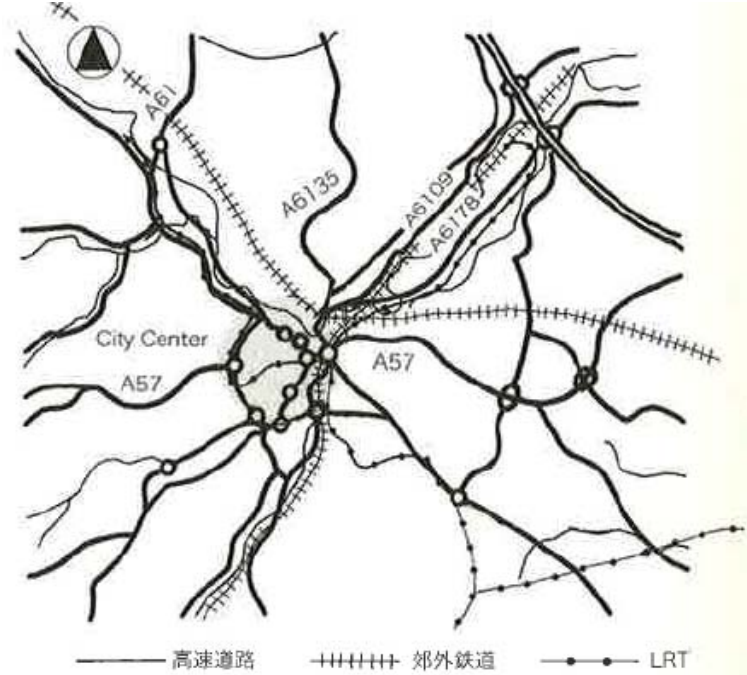


(8) イギリス・シェフィールド

都市名	イギリス・シェフィールド	交通機関	LRT	走行空間タイプ	混合
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人口約 53 万人(都市圏人口 130 万人)、市域面積 153km²、人口密度 1,288 人/ km² ・中心市街地の規模は 2km 四方程度で、周囲を環状道路が取り巻いている。都心居住が少なく、郊外居住が多い。市内の公共交通はバスが中心で、最大手の Maie Line を始め、大手だけでも 4 社が競合。Supertram と呼ばれる LRT は 29km を運行しているが、バスとの競合が激しく、運賃や道路の不利もあって、利用者は 3 万人/日程度と低迷 ・1970 年代に公害問題、交通環境の改善と質の高い公共交通の整備を目的に軌道系交通機関の導入計画が立てられ、1983 年に LRT の整備が決定 ・LRT は 30 年間補助金なしで民営化が決定。借入金の承認を含め建設費は政府がほとんどを負担し、民営化後は 27 年間の運営権を 7,400 ポンドで売却して、借入金を返済する予定であった。 ・都心から Meadowhall(郊外型大規模ショッピングモールあり)、Middlewood (サッカースタジアムあり)、Halfway (住宅団地あり) の 3 方向に向かい、全長 29km、うち 15km は道路上、12km が専用軌道、2km が貨物船からの転用。1994 年 3 月から 1995 年 9 月にかけて 7 次にわけて開業 ・当初年間 2,200 万人を計画していた乗車人員は、全線開業後の 1995 年度に 800 万人、1996 年度に 1,000 万人に留まった。このため、運営会社の赤字は初年度が約 560 万ポンド、1995 年度は 1260 万ポンドに達し、深刻な財政問題に直面 ・1996 年 10 月から全区間で車掌を乗せて運賃の収受を行い、当初の民営化方針に則り、1997 年 12 月には 2024 年までの運営権とともに運営会社をバス会社の Stagecoach に売却(経営不振のため、売却金額は当初の予定のわずか 1.5%である 115 万ポンド) <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p style="text-align: center;">図 100%の急勾配区間を走る Supertram</p>				

	 <p>図 シェフィールド・鉄道と道路のネットワーク</p>
<p>合意形成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バス会社との競合：LRT を施設する計画が立ち上がった時期と、マーガレット・サッチャー政権がバス会社に対して規制緩和方針を打ち出した時期が重なり、開業当初から新路線を拡大するバス会社との乗客の奪い合いとなった。 ・地形の問題：シェフィールドの街は起伏が激しく、急勾配が市内随所に存在し、それを避けるように路線を策定した結果、遠回りする事を嫌った乗客がますますバス利用に流れる結果となった。 ・行政の非介入：行政が民間と共同で綿密なプラン策定を行い、交通体系の見直しや都市改造などを市民からの声を聞きながら計画を行うということ、シェフィールドは怠り、運営会社側が「まず路線ありき」で計画を進めた為に、バス会社との競合や、地形を考慮しなかった路線計画などが生じ経営破たんにつながった。
<p>出典</p>	<p>西村幸格・服部重敬『都市と路面公共交通 欧米にみる交通政策と施設』（学芸出版社、2000年）</p>